

海外彙報

●亞米利加合衆國シカゴ府フレベル會保嫗練習學校 同校は千八百七十六年の創立にかゝれるものなるが、目下其職員は左の如くなり

校長 ブラツチフアルド夫人。

副校長 ベーヂ夫人

教育學及保育學理論教授 アリス、ブトナム夫人

恩物及作業教授 メリー、ローラ、シエル

ドン嬢

心理學教授 博士アミー、タンナー氏

體操教授 ローズ、ガイルス氏

音樂教授 エリノル、スミス氏

圖書教授 イダ、カッサ、ヘッフロン氏

談話及博物教授 マリオン、フラスター、ワツ

シユブレン夫人

等にして、修業年限は二ケ年なり

本會の目的は、要するに育児に關して一汎公衆の知識及興味を増進せしめ、又公立學校の要部として幼稚園の増設を奨励するに在り。而して本校の目的とする所は、眞誠なる教育的心理學及哲學の知識を應用して初等教育の理論及方法に熟達せる婦人を養成するに在りとのことなり

新刊紹介

●おをゑやま 全一冊 湯本武比古書

少年書類の修身童話第九巻として出だせるもの附録にならずものといふ寓言を添へたり。全體假名を以て記され併かも其假名遣ひは全く著者の考案に出でたる新規の遣ひざまなり。著者は修身童話としてよりも寧ろ、假名遣ひの新案を世に發表せんとして出せるが如し。斯道に従事する人の一讀すべきものなるべし。(定價十錢 發行所 開發社)

●東宮御慶事の記 全一冊 横川回天著

過般の東宮御慶事のことゝもを詳密に記録せられたる優美書なる物なり (正價卅五錢 發行所 同社)

●人皇の始 全一冊 遊佐誠甫著

歴史修身談の第二篇として、神武天皇より崇神天皇末までの間のことを最も面白く叙述せられたるもの、少年の讀物として極めて良好のものなるべし。(定價十二錢 發行所 同社)

●國文學 佛語解釋 全一冊 織田得能師著

我が國語につきて十分に研究せんとするには、是非とも佛語の意義に精通せざるべからざるは何人も認むる所、然も佛語の意義の幽玄なる、其出所知り易からざる、深く國文學研究者の苦みし所なり本書は竹取榮花、枕草紙三鏡、神皇正統記方丈記、十訓抄、徒然草、古今集拾遺集等十二種の國文學中に引用せる悉皆の佛語を精密に解釋せられたるもの、著者は佛教界の碩學、もとより尋常一様の片々たる杜撰の書と同視すべきにあらず、全紙五百ヘーッ以上巻首に五十五ヘーッの索引を附せられたるなど用意至れり、國文學研究者は之によりて最有益の方便を得たりといふべし。(定價一圓五十錢 發行所 光融館)

●袖珍和獨會話字典 全一冊 酒詰謙之助著

此種の書物は、獨逸語研究者に向つて、極めて必要のものにして然かも從來途に見る能はざりしもの著者は獨語學者として夙に吾人の推尊せる人、僅に百ヘーッ以内の袖珍書の中に日用最も普通の和語を獨語に對譯し單語を引けば直ちに之に伴ふ會話の見つかる嫌にせり。吾人は新學研究者座右不可缺友として推薦せんと欲す。(定價四十錢 賣捌所 三書堂)

●國史通釋 全一冊 杉山 文悟編 杉山俊之助編

本書は二百頁餘の小冊にして其名の示すが如く國史上著者なる人物、地名、制度、文物、宗教等を各々其項に分ちて簡單明瞭に説明したるものなり。通釋と云ふ名は少しく大袈裟に失する感あり却て便覽とか、要解とか命する方頁からんと考へらる然れども本書の世に出でしが爲め小國史を獨習するものに對して許多の便利を與ふるは我々の喋々を要せずして知らるゝ所なり。(定價四十錢 賣捌所 金昌堂)

●明治才媛歌集 全一冊 女子の友記者編

これ女子の友讀者諸媛のものせし幾千の和歌新體詩等を集めて一冊とせるもの優美にして輕便に出來たり夏期の好伴侶ならんか。(定價二十五錢)

●東洋女訓叢書 第四篇 女子の友記者編

第四篇としてつばの石ふみを出だせり。こは元祿年間の書にして歸雁、介婦の教、慈悲嘉言、馴方の帖、賢女の判、貞女烈女の判、似せもの判等併せて十三卷より成りたるもの、其内容の如何は之によりて大抵察知せらるべし。輕薄淫靡淫靡奔遠なる現今の杜撰極まる寫實文學より他に讀むことを知らざる現代の女流諸君に讀んで此種の書籍を推薦せん。(定價四十五錢 以上二書 東洋社發行)

新刊雜誌

をんな	第五號	大日本女學會
日本婦人	第十九號	帝國婦人協會
女子の友	第九十二、三號	東洋社
女鑑	第二百三十、一號	國光社
うらにしき	第四百四號	尙綱社
家庭	第六號	大日本佛教婦人會
教育實驗界	第七卷第十號	東京育成會
教育學術界	第三卷第二號	同文館
教育時論	第五百八十二、三、四號	開發社
日本之小學教師	第三卷第三十號	國民教育學會
兒童研究	第四卷第二號	教育研究所
婦人衛生雜誌	第三百三十九號	大日本婦人衛生會
衛生談話	第五號	通俗衛生茶話會
哲學雜誌	第廿六卷第廿三號	哲學雜誌社
婦女新聞	第廿五、廿六、廿七、廿八號	婦女新聞社
よるづ報知	第十三、四號	扶桑廣告株式會社
東京市教育時報	第九號	東京市教育會
あけぼの	第一號	姬百合社
たのしみ	第一號	三榮社
東洋哲學	第八編第六號	東洋哲學會
京阪神保會雜誌	第六號	

次號豫告

有田學友會々報 第三號
 名古屋高等女學校卒業生報告書 第二號
 有田學友會 永東書店

子供は集、母の顔色と言葉使ひは、ひさ子
 ふみ子兩

女史の筆に成るもの、例に、夏、の、海、邊、は、東、海、生、
 由りて本誌獨特の好文、夏、の、海、邊、が巧に書き
 出だせる納、八月の自然界、筆になれる娯樂の天

涼の好同伴、八月の自然界、筆になれる娯樂の天

地、女監參觀記、は、窈窕花の如き婦人界の側面
 實地の視察に付きて最、暗澹冥府の如き者あるを落生が

痛切に寫し出せるもの、千代尼の夏期の俳句
 は、下村教授の筆によりて此の絶代の、總領のじ

女性文學家の思想を髣髴たらしめ、總領のじ

んろく、は秋山國手によりて面、齋藤教、母と
 白く説明せられたり、其他、授の、

教育、を始め學術、史傳、講義各欄の續稿、子と
 文苑寄書例によりて賑かなるべく、

も欄 には従前のお伽話一口話等の外更に英雄豪傑等の面白き逸話、少年談等を掲載すべし。

追つて七、八兩月間に限り寄贈原稿等は凡べて東京神田區一ツ橋通り町十三番地東基吉宛にて御送附相なりたく。尙月毎十五日以内に御寄贈の分は翌月の本誌に登載いたすべく候。

會報

フレーザー會第廿一常會記事

明治三十四年六月一日午後一時三十分より女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會中村主幹の京阪地方視察談話及會員秋山七郎氏の俱談總領のじんろくにつきての談話ありて後唱歌(椿、馬、才女、近江八景及蟹)及遊嬉(大寒小寒、坊さんく、椅子とりさがしも及鳩の遊)を練習し保姆合唱歌を以て閉會せしは午後五時なりき來會者八十九名他に同伴者數名

入會

東京ノ部

本郷區誠之小學校

本郷區弓町一丁目廿五番地

小向きみ

數藤きん

女子高等師範學校

赤坂區青山小學校

麴町區富士見小學校

本所區中和小學校

淺草區柳北女子小學校

下谷區谷中清水町廿番地

小石川區表町百九番地

地方ノ部

大分縣大分幼稚園

神戸市神戸幼稚園

相州橫須賀町橫須賀小學校

埼玉縣浦和町百三十五番地

福岡縣遠賀郡若松町大字若松八十三ノ二

島根縣濱田高等女學校

臺灣淡水港辦務署

退會

門脇節

相川のぶ

山口きよ

川島みつ

井上幹

春田隆

松田とし

太田ため

中村松

大橋みなか

矢島とせ

柳川松

淺井馨

村上光

清水直義

會員前田りえ君去る五月廿七日永眠せらる茲に謹んで弔意を表す